

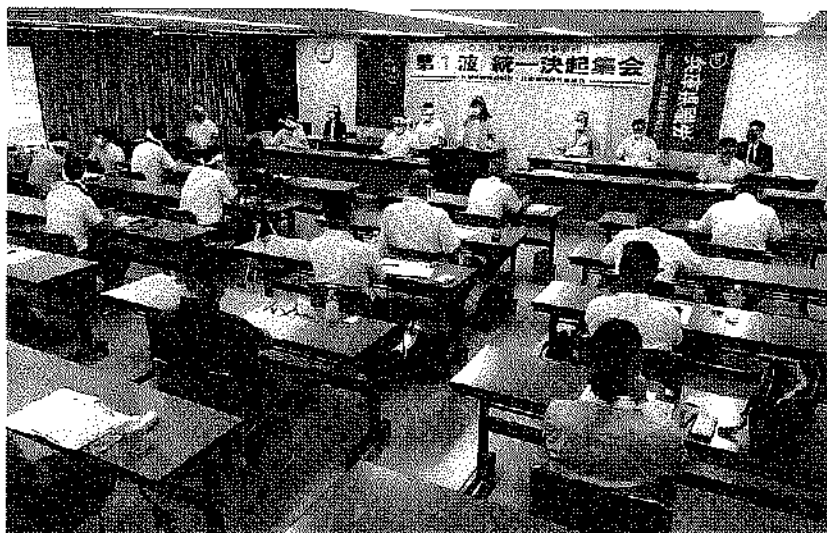
10月20日 現業統一交渉 (職員会館ホール)
10月26日 連合兵庫第18回定期大会
(メリケンパークオリエンタルホテル)
10月31日 衆議院議員選挙投票日
11月3日 憲法集会 (メリケンパーク&Web)
11月4日 県本部決起集会
(神戸市勤労会館大ホール)



兵庫県職員労働組合
所在地 神戸市中央区下山手通5-10-1
兵庫県職員労働組合中央執行委員長
発行人 青木 久実子
編集人 金本 信二
1部10円 (ただし、組合員の
購読料は組合費に含まれる)
TEL 078(242)4311
FAX 078(261)2069

県人事委勧告

月例給改定なし一時金0.15月引下げ



▲要請行動後の第一波統一決起集会

県人事委員会は、10月12日、月例給改定なし、一時金0.15月引下げとする報告及び勧告を行った。公民比較に基づくものとは異なり、コロナ対応をはじめ、県民の生命や生活を守るために努力してきた職員の思いや実態を踏まえる必要と判断した。県職労は勧告翌日を中心に報告抗議集会を行った。

県職労は、8月10日の人事委員会要請行動で、兵教組とともに各支部からの要請を伝え、署名を提出した。

その後開かれた第一波統一決起集会では、両組合代表の決意表明が行われた。兵庫県人事委員会勧告は10月12日に行われ、職員給与については、民間給与を3円(0.00%)を上回ったが、公民格差が極めて小さいことから2年連続で月例給の改定は見送られた。

一時金は、国同様、0.15月引き下げ(再任用職員は0.1月)とし、会計年度任用職員の期末手当については、「常勤職員との均衡を踏まえ、適切に対応する必要がある」と昨年同様の報告を行い、人事委員会としても懸念していることを確認した。これらを踏まえ、法改正も合わせ、処遇改善の取り組みを強化していく必要がある。

総選挙で自民党政治にノーを

10月14日に衆議院が解散し、10月19日公示、31日投票の日程で衆議院選挙が行われることとなった。自民党は、支持率が低迷している菅内閣から岸田内閣に交代すると、戦後最長となる10日で解散し、総選挙を行うこととした。この党利党略優先の自民党政治に

し、野党共闘の力で「ノー」の判決を下そう。

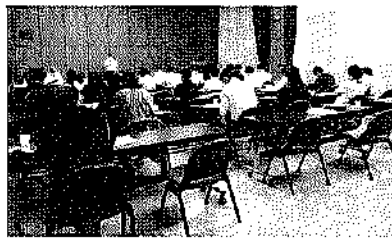
県職労は、15日に書面決議された方針に基づき、推薦候補等の必勝に向けて取り組む。県職労推薦候補、自治労県本部推薦・支持候補は次のとおり。

【県職労推薦候補者】
兵庫2区 松川治郎 (立憲)
兵庫5区 梶原康弘 (立憲)
兵庫7区 安田まり (立憲)

【自治労県本部推薦候補者】
兵庫3区 佐藤幸樹 (国民)
4区 今泉まお (立憲)
6区 桜井 周 (立憲)
12区 酒井孝典 (立憲)
【自治労県本部支持】
兵庫1区 井坂信彦 (立憲)

兵庫10区 おき圭子 (立憲)
大阪9区 大橋ゆうこ (社民)

舞台は対県賃金確定闘争へ



▲10/13県庁支部抗議報告集会

県職労と現評は、9月27日、自治労指令に基づき知事部局・病院局に対し労働二権を有する現業職に関する「基本要請三項目」を申し入れた。現業職場の課題として、第一に採用停止に伴う少数・高齢化で、県公表資料では全国平均を5歳上回る55.9歳(19年度)となり現場からマンパワー不足が懸念されている。また、給料表は07年度の独自引き下げの影響で誰一人最高号給に到達できない。しかし、当局は、採用再開には極めて消極的で賃金もさらに引き下げる姿勢が強く表れている。この闘争は、自治労最大の全国統一闘争であり、基準日である22日には「早期1時間スト」を構えて取り組んでいる。しかし、10月5日に当局から交渉の持ち方について提案があった。本部は14日に緊急合同闘争委員会を開き、抗議

労使協議制の遵守を

'21現業・公企統一闘争

行動に取り組んだ。その結果、10月20日、一部交渉メ

はりま姫路医療C(仮)第2回現地交渉

はりま姫路総合医療センター(仮称)開設に係る第2回現地交渉を、9月14日に実施した。当局から示された看護職の体制は、「4-8体制を基本」であったが、3人夜勤の病棟もあった。たことや、臨床工学技士の体制が深夜・深夜1名であったため、再検討を求めた。職員駐車場についても車通勤を希望する者の台数を確保するよう要請し、交渉を終えた。

自治労兵庫県本部が定期大会

第72回自治労兵庫県本部定期大会が、10月2日、舞子ビラで開催された。大会は新型コロナウイルス感染防止対策を行い、対面での開催となった。県職労からは代議員9人が参加し、2021年度運動方針をはじめとする全ての議案が賛成多数で承認された。

書記局短信

感染症と歴史の意外な関連。死亡者数の累計が131.6億人と推計されているベスト。欧州では領主のもとで農奴が働く荘園制度の時代、ベストで農民の多数が死亡し、荘園が維持できなくなった。それが農奴解放につながり、社会制度の根幹であった荘園制度が崩壊した。日本では、天然痘による人口減少が藤原政権を揺るがし、土地の私有化を認める「墾田永年私財法」ができた。土地を開拓しても死亡すれば中央政権に没収されていたのが、開拓すればその分、資産が増えるため農民の士気は上がり、年貢も増え、政権の安定に繋がった。その土地を守るために誕生したのが武士と言われるが、倒幕の原動力となった攘夷を燃え上がらせた要因の一つに、コレラを持ち込んだのは外国だとの考えがあったという。感染症で誕生した武士が、感染症で滅んだのも歴史の皮肉か。天然痘では、聖武天皇が「すべての責任は為政者にある」と滅亡政策を行ったという。

新聞ひょうこに新年号 作品募集

新規

◆第3回マイフォトコンテスト

- ・テーマ ①楽しいで賞、②きれいで賞、③おいしそうで賞
- ・テーマ番号、「表題」、説明文を添付(③は店なら店名も)
- ・メール送信またはプリント郵送

【委員長賞】1人 1万円 【入賞】若千名 2千円のクオカード

◆第31回組合員川柳

【大賞】1人 5千円 【入賞】若千名 2千円のクオカード

- 他への未応募作品(1人各3点以内)
- メ切は11月24日(水) 厳守 職場・氏名も記入
- 応募はjyosen@kensyoku28.comまで(郵送可)

第4回県本部囲碁・将棋大会参加者募集

◎日時:12月4日(土) 9時受付(昼食付き)

◎会場:ひょうご共済会館

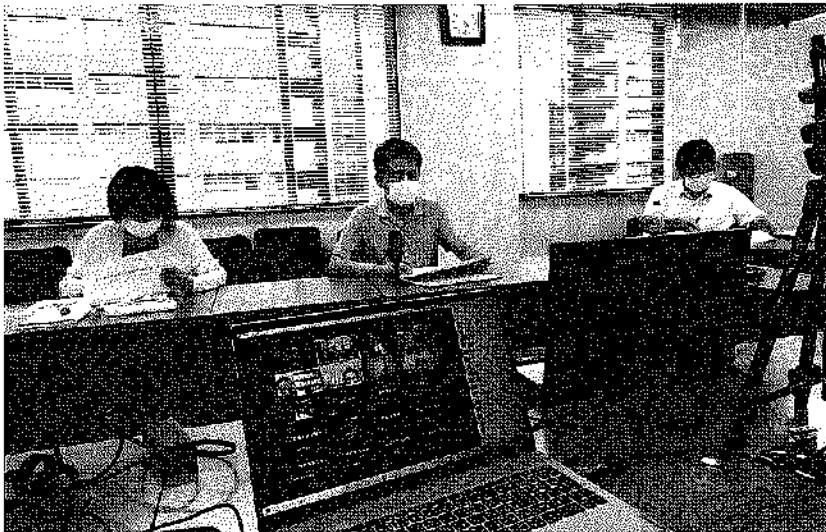
- ◇囲碁の部 ◇将棋の部 ◇メ切 11月12日(金)
- ◇申込み先 本部または支部書記局(級・段の申告)

第94回県職労定例大会

書面開催で方針を確認

総対話運動を軸に分会活動の強化を

予定していた9月16日の定例大会は、コロナウィルス感染拡大に伴い、対面での開催が困難と判断し、書面議決での開催となった。代議員に対する議案説明はWebで行い、議案への質疑、回答を経て、10月15日に開票。本部原案が全て可決した。詳細は県職労ニュース参照。



▲リモートで議案説明をする執行部

主な意見と答弁
一般経過報告
分会の話し
合いが大切

宮嶋代議員(但馬) 豊岡健福のコロナ関連での超勤問題について、分会から相談をうけ、所属長と協議し、未払い超勤を支給させることができた。

▼分会で納得するまで話し合い、成功した事例である。分会、支部の粘り強い取り組みに敬意を表する。

1号案
第1議
コロナ禍でも工夫
して組織強化を

藤本代議員(神戸)

県職労の運動に今、求められているのは現場の組合員が困っている、分会・支部役員が相談に乗って解決し、その姿勢を未加入者にも見せていくこと。支部では分会長会議、分会会議で定例開催し、何かあればすぐ対応しているが、支部役員だけでは不十分。本部役員の参加と、新たな相談

体制の構築とメンタル対策の検討を。

▼本部も可能な限り参加することとしており、引き続き努力する。相談体制の構築には、適切な相談対応ができる知識とスキルが必要。メンタル対策の重要性は認識しており、十分な議論と準備のうえ、検討する。

井川代議員(東播)

会食調査があり、活動自

「組合に助けられた」という体験を全面に出したパンフ(4月作成)は、良い考えだ。組合員からの相談、意見には、その都度当局に対応を求めているが、見えにくいことから、体験談を記載した。今後も組織拡大に繋がるようなパンフの作成に取り組み。

田路代議員(阪神)

定年延長については、ローンの問題等組合員の関心が高い。じころう共済や労金の相談窓口の紹介等対応を。

健康福祉事務所、保健師の退職が続いた。通常業務に追われ十分なフォローができない。人員増、体制強化が必要。

▼定年引き上げは人生設計に大きな影響を及ぼすことから、職場環境の整備、役職定年の取扱いをはじめ、常勤職員と暫定再任用職員、定年前再任用短時間職員の給与改善を求める。労金・全労済の紹介、情報提供に努める。

保健所の人員増、体制強化は引き続き求めていく。人材育成、技術継承は今後重要な課題と認識。欠員の早期回復を求めて行く。

細川代議員(東播)

地域共闘運動の総括が十分と感じる。県職労運動の担い手は本部・支部・分会の組合員。その視点での総括が必要。

▼各地域での取り組みが集約できておらず、率直に反省する。書面審議となり、取り組みの報告、交流ができる。今後の総括は留意する。

支部新3役の紹介(敬称略)

◆東播支部 (10月1日～)	支 部 長 細川 雅弘 (加古川健福)
副支部長 井川 容充 (加古川農林)	
書 記 長 大崎 元 (加東土木)	
◆淡路支部 (10月1日～)	支 部 長 安積 義典 (加古川医C)
副支部長 大豊 英則 (加古川土木)	
書 記 長 坂口 哲也 (淡路農技C)	
◆西播支部 (10月1日～)	支 部 長 坂口 英行 (淡路医療C)
副支部長 原 貴幸 (洲本土木)	
書 記 長 石上 横山 (まち技C)	

書記の退職

本部の有賀弓恵書記が8月末で退職されました。長い間、県職労運動を支えていただき、感謝いたします。

【お詫びと訂正】

9月号の支部3役紹介で、丹有支部長の太来弘孝さんは、太来弘孝さんの誤りでした。お詫びして訂正します。

第2号予算案
予算執行にメリハリを

西田代議員(県庁)

専従役員の前減が検討されているが、優秀な役員を輩出していくためにも、待遇改善をしていく必要がある。今後の役員確保を考えると、専従者の負担軽減(待遇改善)を図る必要がある。これは、ご指摘のとおり。負担軽減については、運動全体のあり方や本部の役割等とも関連することから、今後の労使関係や、公賠責の効果等もみながら検討する必要がある。検討課題とさせていただきます。

提代議員(西播)

若手職員の加入が少なく、早急な対策が必要である。組合費が高いという理由が多く聞かれているため、採用年数などによる組合費の引き下げを検討していただきたい。

▼これまでも議論してきた

第4号議案
日当引き上げ
について

提代議員(西播)

コロナ禍で参加者が制限される中、参加した組合員のみ日当等を引き上げることとは良いのか。

▼未執行額の還元について、は、組織強化の観点から、日当及び総対話補助の引き上げを行うこととした。ただし、新型コロナウイルスの影響を考慮した暫定措置であり、ご理解願う。

第1号議案(運動方針案)に対して2本、第2号議案(予算案)に対しては1本の補強・修正案が提出された。2本については、趣旨受け入れで取り下げられた。知事選については、修正案は、趣旨を受け入れることができないことから、採決となった。

竹田代議員(県庁) 大豊・井川代議員(東播)

①新型コロナウイルス感染防止にかける取り組みの充実、無原断が間違ったものでは認識していない。趣旨を受け入れられないことから、採決に付す。

②予算案について、積立金への繰り出し金は闘争費として支出し、組織強化に活用すべき。

③積立金は公賠責の対応や知事交代による「備え」のため。組織強化については組織部費で措置しており、今後の議論の中で、更に必要があれば、補正での対応も検討することから、取り下げを求める。

▼(提案者) 今後組織強化に向けた人的、物的対策について議論されることが確認できたので、採決は望まない。

強
補
修正案
知事選推薦で採決

(一財)兵庫県職員互助会からのお知らせ

第57回『兵庫県職員作品展』

【会 期】10月20日(水)～24日(日) 10時～18時
(23日(土)は17時、24日(日)は12時まで)

【会 場】兵庫県民会館2階 アートギャラリー
「書、絵画、写真」3種目の作品多数!

- 野球教室 -

【日時】11月23日(火・祝)

【場所】はっちもつとフィールド神戸

【参加資格】会員・準会員の同居家族(小学生対象)

【募集人数】子ども40名 ※先着順

【参加費用】1,500円

【申込方法】所属配布または互助会HP掲載のチラシにより応募(FAX可)

問い合わせ先 職員互助会 福利厚生課
TEL 078-362-4494 FAX 078-341-6056
互助会HP <http://www.hyogo-johyokai.jp>